

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第6部門第2区分

【発行日】平成17年3月17日(2005.3.17)

【公開番号】特開2000-122647(P2000-122647A)

【公開日】平成12年4月28日(2000.4.28)

【出願番号】特願平10-378155

【国際特許分類第7版】

G 10 H 1/00

【F I】

G 10 H 1/00 102Z

【手続補正書】

【提出日】平成16年4月13日(2004.4.13)

【手続補正1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】発明の名称

【補正方法】変更

【補正の内容】

【発明の名称】演奏指示装置及び演奏指示のプログラムを記録した記録媒体

【手続補正2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】特許請求の範囲

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】

外部からマニュアル演奏操作データを入力する入力手段と、
少なくとも、演奏に係るオン操作またはオフ操作を示すイベント情報と該イベント情報を
実行するタイミングを示すタイミング情報を含む曲データを記憶する記憶手段と、
前記記憶手段に記憶されている曲データを順次読み出す読出手段と、
前記読出手段で読み出される曲データのオン操作イベント情報に対応するタイミング情報
が示すタイミングにて、表示手段の画面上の特定位置に所定のアイコン画像が到達するよ
うに当該アイコン画像をスクロール表示させると共に、前記入力手段からオフ操作を示す
マニュアル演奏操作データが入力されたタイミングと前記読出手段で読み出される曲データ
のオフ操作イベント情報に対応するタイミング情報が示すタイミングとが所定時間以上
ずれている場合に、前記アイコン画像を異なる形態に変更して表示させる表示制御手段と
、
を有することを特徴とする演奏指示装置。

【請求項2】

少なくとも、演奏に係るオン操作またはオフ操作を示すイベント情報と該イベント情報を
実行するタイミングを示すタイミング情報を含む曲データを記憶する記憶手段と、
前記記憶手段に記憶されている曲データを順次読み出す読出手段と、
前記読出手段で読み出される曲データのオン操作イベント情報に対応するタイミング情報
が示すタイミングにて、表示手段の画面上の特定位置に所定のアイコン画像が到達するよ
うに当該アイコン画像をスクロール表示させると共に、前記オン操作イベント情報の実行
タイミングからオフ操作イベント情報の実行タイミングまでの時間間隔に対応する距離だけ
前記表示手段の画面上の特定位置から離れた位置をスクロール表示開始位置として前記
アイコン画像を表示させる表示制御手段と、
を有することを特徴とする演奏指示装置。

【請求項 3】

コンピュータに、

外部からマニュアル演奏操作データを入力する入力手順と、

少なくとも、演奏に係るオン操作またはオフ操作を示すイベント情報と該イベント情報を実行するタイミングを示すタイミング情報とを含む曲データを記憶する記憶手段から曲データを順次読み出す読出手順と、

前記読出手順にて読み出される曲データのオン操作イベント情報に対応するタイミング情報が示すタイミングにて、表示手段の画面上の特定位置に所定のアイコン画像が到達するように当該アイコン画像をスクロール表示させると共に、前記入力手順でオフ操作を示すマニュアル演奏操作データが入力されたタイミングと前記読出手順で読み出される曲データのオフ操作イベント情報に対応するタイミング情報が示すタイミングとが所定時間以上ずれている場合に、前記アイコン画像を異なる形態に変更して表示させる表示制御手順と、

を実行させるためのプログラムを記録したコンピュータ読み取り可能な記録媒体。

【請求項 4】

コンピュータに、

少なくとも、演奏に係るオン操作またはオフ操作を示すイベント情報と該イベント情報を実行するタイミングを示すタイミング情報とを含む曲データを記憶する記憶手段から曲データを順次読み出す読出手順と、

前記読出手順にて読み出される曲データのオン操作イベント情報に対応するタイミング情報が示すタイミングにて、表示手段の画面上の特定位置に所定のアイコン画像が到達するように当該アイコン画像をスクロール表示させると共に、前記オン操作イベント情報の実行タイミングからオフ操作イベント情報の実行タイミングまでの時間間隔に対応する距離だけ前記表示手段の画面上の特定位置から離れた位置をスクロール表示開始位置として前記アイコン画像を表示させる表示制御手順と、

を実行させるためのプログラムを記録したコンピュータ読み取り可能な記録媒体。

【手続補正 3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0004

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0004】

【課題を解決するための手段】

請求項1に記載の演奏指示装置の発明は、外部からマニュアル演奏操作データを入力する入力手段と、少なくとも、演奏に係るオン操作またはオフ操作を示すイベント情報と該イベント情報を実行するタイミングを示すタイミング情報とを含む曲データを記憶する記憶手段と、前記記憶手段に記憶されている曲データを順次読み出す読出手段と、前記読出手段で読み出される曲データのオン操作イベント情報に対応するタイミング情報が示すタイミングにて、表示手段の画面上の特定位置に所定のアイコン画像が到達するように当該アイコン画像をスクロール表示させると共に、前記入力手段からオフ操作を示すマニュアル演奏操作データが入力されたタイミングと前記読出手段で読み出される曲データのオフ操作イベント情報に対応するタイミング情報が示すタイミングとが所定時間以上ずれている場合に、前記アイコン画像を異なる形態に変更して表示させる表示制御手段と、を有する構成になっている。

請求項3に記載の記録媒体の発明は、外部からマニュアル演奏操作データを入力する入力手順と、少なくとも、演奏に係るオン操作またはオフ操作を示すイベント情報と該イベント情報を実行するタイミングを示すタイミング情報とを含む曲データを記憶する記憶手段から曲データを順次読み出す読出手順と、前記読出手順にて読み出される曲データのオン操作イベント情報に対応するタイミング情報が示すタイミングにて、表示手段の画面上の特定位置に所定のアイコン画像が到達するように当該アイコン画像をスクロール表示させ

ると共に、前記入力手順でオフ操作を示すマニュアル演奏操作データが入力されたタイミングと前記読出手順で読み出される曲データのオフ操作イベント情報に対応するタイミング情報が示すタイミングとが所定時間以上ずれている場合に、前記アイコン画像を異なる形態に変更して表示させる表示制御手順と、をコンピュータに読み取り実行させる演奏指示のプログラムを記録している。

【手続補正4】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0005

【補正方法】削除

【補正の内容】

【手続補正5】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0006

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0006】

また、請求項2に記載の演奏指示装置の発明は、少なくとも、演奏に係るオン操作またはオフ操作を示すイベント情報を実行するタイミングを示すタイミング情報を含む曲データを記憶する記憶手段と、前記記憶手段に記憶されている曲データを順次読み出す読出手段と、前記読出手段で読み出される曲データのオン操作イベント情報に対応するタイミング情報が示すタイミングにて、表示手段の画面上の特定位置に所定のアイコン画像が到達するように当該アイコン画像をスクロール表示させると共に、前記オン操作イベント情報の実行タイミングからオフ操作イベント情報の実行タイミングまでの時間間隔に対応する距離だけ前記表示手段の画面上の特定位置から離れた位置をスクロール表示開始位置として前記アイコン画像を表示させる表示制御手段と、を有する構成になっている。

請求項4に記載の記録媒体の発明は、少なくとも、演奏に係るオン操作またはオフ操作を示すイベント情報を実行するタイミングを示すタイミング情報を含む曲データを記憶する記憶手段から曲データを順次読み出す読出手順と、前記読出手順にて読み出される曲データのオン操作イベント情報に対応するタイミング情報が示すタイミングにて、表示手段の画面上の特定位置に所定のアイコン画像が到達するように当該アイコン画像をスクロール表示させると共に、前記オン操作イベント情報の実行タイミングからオフ操作イベント情報の実行タイミングまでの時間間隔に対応する距離だけ前記表示手段の画面上の特定位置から離れた位置をスクロール表示開始位置として前記アイコン画像を表示させる表示制御手順と、をコンピュータに読み取り実行させる演奏指示のプログラムを記録している。

【手続補正6】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0007

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0007】

請求項1および請求項3に記載の発明によれば、演奏者の離鍵タイミングが早すぎたり遅すぎたりしたときに表示形態を変更して、演奏者に離鍵タイミングの正誤を知らしめ、また、請求項2および請求項4に記載の発明によれば、押鍵タイミングに先立って押鍵-離鍵時間間に応じて表示画面上における距離を変更して、演奏者に音長を知らしめるので、楽譜が読めなくても押鍵時間を容易に認識できるようになる。

【手続補正7】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】 0 0 8 4

【補正方法】 変更

【補正の内容】

【 0 0 8 4 】

【発明の効果】

請求項 1 および請求項 3 に記載の発明によれば、演奏者の離鍵タイミングが早すぎたり遅すぎたりしたときに表示形態を変更して、演奏者に離鍵タイミングの正誤を知らしめ、また、請求項 2 および請求項 4 に記載の発明によれば、押鍵タイミングに先立って押鍵 - 離鍵時間間隔に応じて表示画面上における距離を変更して、演奏者に音長を知らしめるので、楽譜が読めなくても押鍵時間を容易に認識できるようになる。